

令和6年度

事業報告書

特定非営利活動法人 日本プール利用推進協会

1 事業の成果
令和6年度は、プールの泳ぐ以外の楽しさを伝えるイベントの実施のほか、研究顧問が所属する大学との連携で研究活動を進めていった。

2 事業の実施に関する事項
(1) 特定非営利活動に係る事業 (事業費の総費用【285,594】円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
プール活動の広報事業	【アモーレリフティング写真展 愛する人を持ち上げる!ア モーレリフティング撮影会とそ れを支えたヒーローたち	4月20 日～28 日	豊橋市ま ちなか図 書館	5人	障がい者 健常者	50人	12000円
	ゆるプール	6月30日	上井草ス ポーツセ ンター	2人	一般利用 者	123人	0円
	ゆるプール	9月29日	アクアリー ナ豊橋	5人	障がい者 健常者	25人	0円
水中運動等研究事業	研究方法についての調査	随時	オンライン	3人	—	—	0円
	プールの効果に関する研究	6月～8 月	日本福祉 大学美浜 キャンパ ス	10人	—	—	
	プール利用に関わるアンケート	2月～3 月	オンライン	1人	障がい者 健常者	—	

(2) その他の事業 (事業費の総費用【 0 】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	事業費(千円)

〔2024年度を終えて〕

2024年度は、2023年度まで行ってきた水中写真撮影イベント「アモーレリフティング」の実施から、研究活動を中心とした活動にシフトしてきた1年となった。

研究活動においては、当協会研究顧問である藤田のゼミでのプール研究への協力を通じて具体的なプール研究が始まった年となった。

6月からの陸上・水中での研究には、当協会副代表理事で研究担当の横山も協力し、藤田ゼミの学生の方が論文を完成させた。日本プール利用推進協会への謝辞も掲載されている。
今後は学会誌への掲載を目指し進めていく予定となっている。

また、藤田が参加した研究ポスター発表大会全国キャラバン3QUESTIONS〔東海地区編〕に参加し、現在のプールに対する疑問の投げかけと解決の活動について発表することで、他分野とのつながりができた。
今後は名古屋市立大学の天谷氏と連携し、水中運動の効果研究を進めていく予定である。

また、昨年度写真展開催時に実施したプール利用に関する一般の方の意識調査を今年度はオンライン上で実施。

目標の500件を超える589人の方からの回答があった。

こちらは研究顧問辻村を中心とした解析を行い、今後の活動の方向性を決めるための情報として活用していきたい。

また、代表理事山本が行ったプール関係者・プール運営関係者へのアンケートでは「一般の方々のプールに対しての意識を知りたい」という回答が最多となった。

2025年度は、調査結果を活用したイベントの実施を通じ、日本プール利用推進協会の活動を推進する協力者を増やしていくことができないかと考えている。

広報活動においては、副代表理事の西川が中心となって一般社団法人世界ゆるスポーツ協会が主催する「ゆるプール」への開催協力として活動し、泳ぐ以外のプールの楽しさを多くの人に伝えることができた。

〔総括〕

今年度はそれまでのイベントを中心とした活動から、ビジョンを達成するために必要と考えている研究活動を中心とした活動へシフトする年となった。

また、アンケート調査回答の呼びかけを行うことで、イベントの対象となっていた一般の方に加え、現在プールに関わる人との繋がりが生まれ始めた年になったと感じている。

人的資源の獲得と、研究活動に必要な人材との繋がりが、活動を前に進めていくことが可能になると考えている。
2024年度に生まれた繋がりを深め、活動を推し進める「人」の獲得と、研究活動の一層の推進を2025年度は行っていきたい。